

議員研修会を  
開催しました

議会では議員の研鑽のため  
に議員研修会を開催して  
おり、今年は2回の研修会を  
催しました。

砂防行政に関する研修会

日時 平成29年11月20日  
場所 神岡振興事務所会議室  
講師 神通川水系砂防事務所  
所長 岩館知哉氏



集中豪雨、台風、地震と自然  
災害の多い昨今、被害を未然  
に防ぎ、被害をいかに少なく  
するかという、防災・減災の  
課題に私たちは直面してい  
る。その中でも過去に多くの

災害が発生している神通川水  
系の砂防行政について研修を  
行なった。最初に映像による  
自然災害の発生と被害状況を  
解説され、特に記憶に新しい  
7月の九州北部豪雨による被  
害の様子をはじめ平成29年に  
全国で起きた土砂災害の発生  
状況を報告された。また、飛  
騨市内でも十数か所で被害の  
出た今年10月の台風21号を、  
気象情報をもとにその日の状  
況を説明されると、その実態  
がよく把握できた。

神通川水系、特に高原川流  
域においては過去に何度も土  
砂災害が起きており、神岡町  
内に甚大な被害をもたらして  
いる。この流域の地質は脆弱  
で北アルプスでは造山運動に  
より年間4〜5mm隆起してい  
ると言われ、不安定な地質構  
造を呈する他、平湯川流域は  
火山噴出物が厚く堆積し荒  
廢地を形成、下流域の跡津川  
には安政五年の飛越地震(M  
7.1)の原因である跡津川断  
層があり、深層崩壊の危険性  
が高いなど、土砂生産が著し  
い流域である。これら脆弱で  
崩れやすい地質構造に加え、  
急流河川という地形条件、さ

らには、多雨多雪地帯という  
気象条件も相まって、下流域  
に土砂が大量に流出しやすい  
流域特性もある。それぞれに  
対し国土交通省ではハード面  
での対策は取られているが、  
これらのことを踏まえ、私た  
ちは次の3点について心得て  
おく必要がある。①日頃から  
自分の家が土砂災害発生の恐  
れが高い場所にあるのかどう  
か、また、避難場所や避難路に  
ついてハザードマップや岐阜  
県ホームページなどで確認し  
ておくこと。②大雨により土  
砂災害発生の危険度が非常に  
高くなった時には、土砂災害  
警戒情報に注意すること。③  
土砂災害警戒情報が発表され  
たら、早めに近くの避難場所  
など安全な場所に、大雨にな  
る前、暗くなる前に避難する  
こと。どうしても避難場所へ  
の避難が困難なときは、近く  
の頑丈な建物の2階以上に緊  
急避難するか、それも難しい  
場合は家の中でより安全な場  
所に避難すること。

以上のように、議員も常日  
頃から防災意識をしっかりと持  
ち、緊急時には自分の身の安  
全を確保したうえで、避難場

所等での情報収集や混乱を防  
ぐなど、市民に安心感を持た  
せるような行動を取ることの  
大切さを学んだ。(澤 史朗)

一般質問に関する研修会

日時 平成29年12月18日  
場所 委員会室  
講師 龍谷大学政策学部  
教授 土山希美枝氏



須のものであります。議  
会の課題は、(1)政治争点の集  
約・公開、(2)政治情報の整理・  
公開、(3)政治家の選別・訓練、  
(4)長・行政機構の監視、(5)政  
策の提起・決定・評価などが  
あります。特に(4)、(5)には質  
問力が高い・低いことで、議  
会全体もその存在意義にまで  
疑義が生じるため、質問力の  
能力向上は喫緊の課題であり  
ました。その解決のために研  
修を行いました。土山教授  
の話は、目から鱗の如く、今ま  
での質問を振り返るよい機会  
となりました。

事実(現状、問題現況)、分析  
(事実から言えること)、主張  
(言いたいこと)の構成で、事  
実に基づく分析から主張へと  
いうプロセスが大切であるこ  
とを学びました。

龍谷大学の土山教授を講師  
に迎えて、「質問力を高める  
議会力にいかす」をテーマにし  
て議員研修を行いました。  
現在飛騨市議会は14名中半  
数の7名が1期目で、会派も  
ない中で、議員資質向上のた  
めに、議員全員で「研修」とい  
う形で勉強しています。今回  
の講演は議員力の向上には必

自治体(飛騨市)は何のため  
にあるのか。市民が必要不可  
欠とする政策・制度を整備す  
るためのものと認識し、課題  
は無限、資源は有限の中、選択  
された政策等に決断という責  
任を負っていることも学びま  
した。今回の研修を経て、議  
会も更なる発展をしていきま  
す。(高原 邦子)